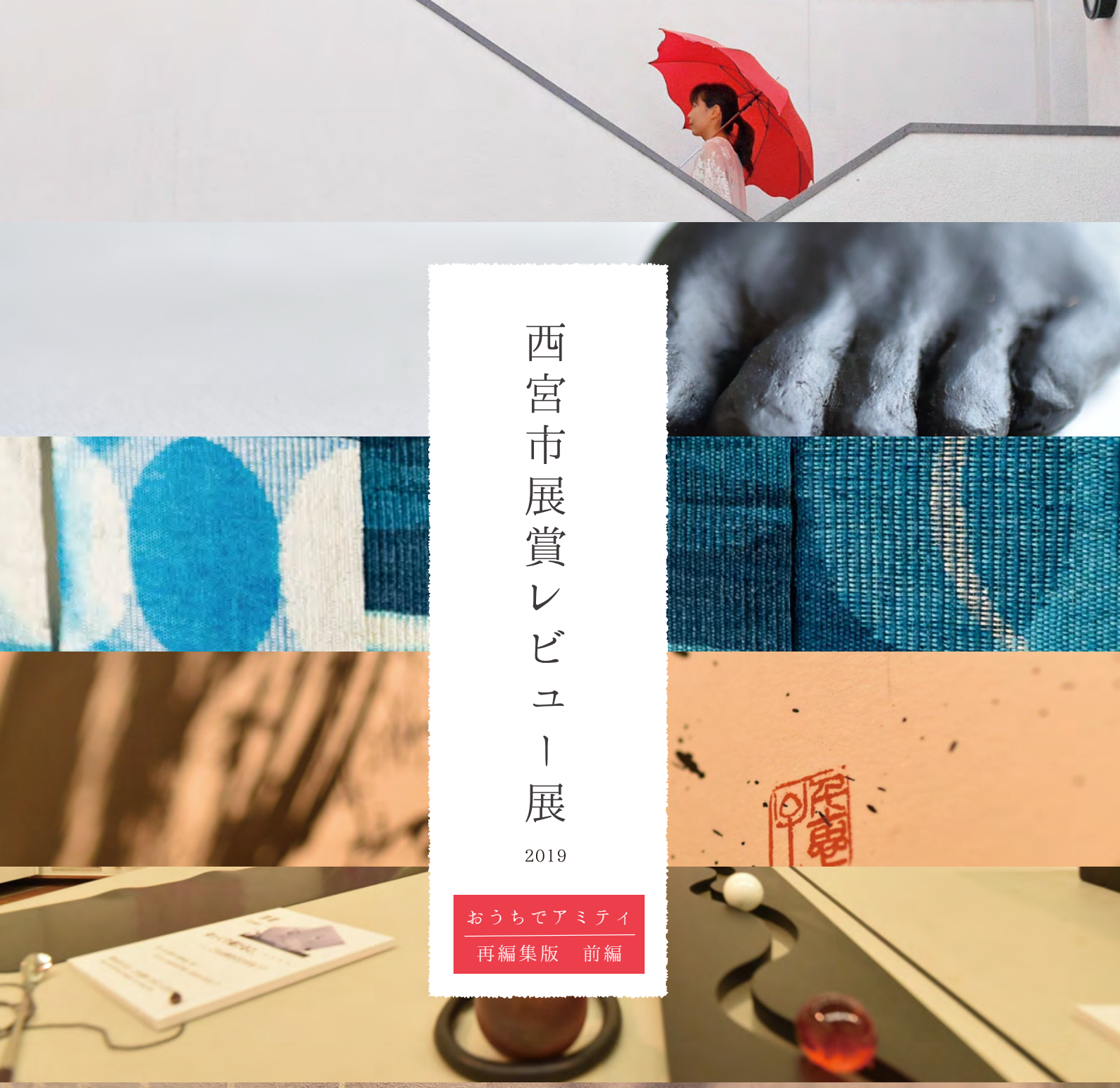

西宮市展賞レビュー展

2019

おうちでアミティ
再編集版　前編

第 69 回西宮市展（令和元年）において各部門の最優秀賞である「西宮市展賞」を受賞した 7 名の作家による展覧会「西宮市展賞レビュー展」のパンフレットからインタビューのページを抜粋。２回に分けてお届けいたします。（初出：2019 年 11 月 27 日）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7 月開催予定だった第 70 回西宮市展について、令和 3 年度に開催延期とさせていただいております。
ご出品やご来場を楽しみにされていた皆様にこの場をお借りしお詫び申し上げます。

主催　西宮市・(公財)西宮市文化振興財団

西宮市展賞レビュー展 2019

槇原健一

西宮市展賞受賞作 映ろう

審査員コメント

センスの良さは抜群で、工夫した様子も分かり、よくまとまっている。物自体を描くのではなく現象を描く、あり方を示す作者の意図がはっきりと表れている作品である。

本人コメント

私たちを取り巻く現実はつねに移り変わります。影はうつろいやすく、はかないものですが、むしろ実体よりも雄弁に本質を映しだしているように思えます。作品では、虚と実のゆらぎを表現しました。

作者紹介

1951年 兵庫県生／1974年 京都市立芸術大学美術学部西洋画科卒業、卒業制作展にて市長賞を受賞／卒業後、企業においてデザイン、商品企画、マーケティングの業務に携わる／退職後、作品制作を再開、グループ展や公募展への出品を行っている。

洋画

+1 幻影

本人コメント

ここ数年、壁などに映りこんだ樹影をモチーフに制作を行っています。ぼんやりとしてあいまいな影像は、いつまで見ていても見飽きることがありません。影に秘められた神秘的な気配をイメージ化してみました。

インタビュー

—はじめに、作家活動を始めたきっかけを教えてください。

幼い時から絵を描くのが好きでした。中学、高校と美術部に在籍していました。

—大学でも美術を専攻しておられますね。

高校のクラブの先輩の多くが美術系の大学を受験しており、その折にはじめて美術の専門大学があることを知りました。芸術大学に進学して、四年間、デッサンと油絵の実技、美術史や色彩論などの学習に励みました。

—キャンバスも個性的で面白いですね。

ありがとうございます。現在は、木製パネルに下地をつくり、アクリル絵具で描いています。アクリル絵具は、学生時代から使用しており、その特性や使い方の基本はそのとき習得しました。

—絵と共に歩まれてきたのが伝わってくるようです。最近はどのような活動をされているんでしょうか？

毎年参加しているグループ展への出品を中心に、制作を行っています。グループ展では、毎年、制作テーマが設定されています。これを自身の制作でどのように取り組むかを考えるのが難しいところですが、いろいろと考えをめぐらしていると自己の中だけでは出てこないような意外な構想が生まれたりして、楽しいところでもあります。

—なるほど。制約があるからこそ生まれるものもあるんですね。市展賞受賞作について審査員に評価された「現象を描く」という着眼点や、作品コメントからも制作への強いこだわりが感じ取れますが、実際はどのような意識をもって臨まれますか？

作品のコンセプトを分かりやすく表現したいと思っています。コンセプトは概念ですからどうしても抽象的なものになるのですが、具象的なイメージを組み合わせて具体的に、そして、できるだけシンプルに表現できればと、取り組んでいます。

—「シンプルに」と言われると、より素直に槇原さんの作品を鑑賞できる気がします。最後に、今後の目標を教えてください。

現在の制作テーマを5年程続けてきましたので、そろそろ新たなテーマにも取り組んでみようかと考えています。いろいろと興味があるものの資料を集めて来ましたので、これを整理していきたいと思います。

西宮市展賞レビュー展 2019

山本美佐子

西宮市展賞受賞作

美ら海の風

審査員コメント

南国の黄昏であろうか、暑さが風に紛れ始めた風情の表現が色調で成功している。コントラストを抑えた分、透明感が制作意図をさらに助長している。

本人コメント

沖縄・小浜島に旅をして見た亜熱帯性植物 アダンと、島で出会った紫鷺をモチーフに、美ら海の風を表現しました。

インタビュー

―はじめに、作家活動を始めたきっかけを教えてください。

元々絵は好きだったのですが、仕事・家事・育児と多忙で後回しとなり、子供が中学に進学・自立してゆく中で本格的に始めました。

―プロフィールにある雨聲会入会のタイミングですか？

その時期です。師より「あなたがただの石ころか、磨けば輝くダイヤモンドになるか今は分からない」と言われ、自分を磨きたいと思い、勤めの傍ら必死でスケッチを重ねました。

―最近はどのような活動をされているんでしょうか？

教室で月二回の稽古をしています。構想から制作、仕上げまで好きなように描かせてもらっています（笑）二年に一度グループ展を開催しているんです。

―西宮市展は今年度が初めての出品と伺ってます。他の公募展への出品活動もされてますか？

はい。新作は各市美術展に数か所、全国区美術展に一か所出品しています。旧作品は所属団体三か所に年一度、委嘱二か所に年一度出品しています。

―受賞作、野毛（金箔・銀箔を細長くきった、切箔の一種）を施されています。制作の中で特に意識されてることがあればお聞かせください。

対象に温かい思い、愛情を寄せながら感情表現が出来ればと思っています。風雅な趣、気韻生動、空気感を大切に描きたいと思っています。

―なるほど。そういった意識、確かに作品から汲み取れるように思います。空気感については今年度市展で審査員に評価されている点でもありますよね。そういった制作技法はどうやって身につけられましたか？

そうですね…師から、同僚から、大家の絵から学ぶ事もありますが、自身が試行錯誤を重ねることで生まれていると思います。

―ありがとうございました。では最後に、今後どんな作品を作っていきたいか、お聞かせください。

花鳥画をテーマに、花や鳥、身近な植物…それに孫たちの成長も、モチーフに仄々と温かくぬくもりを感じられる絵が描きたいと思っています。

作者紹介

1995年 雨聲会入門 / 2009年 青々会入会 / 2000年 赤穂市美術展市長賞 / 2001年 赤穂市制50周年記念大賞（2013年～委嘱・運営委員）/ 2005年 加古川市美術展市長賞 / 2008年 龍野市美術展市長賞（2010年～委嘱出品）/ 2011年 宍粟市美術展市長賞 / 2019年 高砂市美術展市展大賞 / 姫路市美術協会会員 / 赤穂市美術展運営委員 / 赤穂美術家連合会会員 / 青々会会員

+1

本人コメント

カーテン越しのリビングが大好きな花たち、アナナス・ファシアータ、ホヤ・ハート等の美しく珍しい花の生態に、その姿、枝葉が家族の一員の様に愛おしくて描きました。

凛美

日本画

西宮市展賞レビュー展 2019

水上喜行

作者紹介

1942年生/富山市出身/西宮市在住/1968～2012年 教員養成大学教員として勤務/西宮市展において2014年「窓辺の風車」で西宮市展賞/2015年「No! men」で西宮芸術文化協会賞/2016年「流木民合唱団」で西宮市議会議長賞/2017年「八洲百景」で入選

西宮市展賞受賞作

球・戯曲

審査員コメント

手と球が共演するドラマ。ソリッドの透明空間の中での「球」の動きが関心を呼ぶ作品である。5つのバリエーション展開「彗星」「遊星」「小惑星」「人生行路」「衛星」で、いろいろな球の演技を魅せてくれる。

本人コメント

造形教育の研究に、動きの要素が大切と気づいたことが実作研究の動機となりました。展示作品は、手と目とモノ（球）が協応する、球戯にも似た妙味に気づいた初期の頃の作品です。

+1

SPHEROLOGY/「六つの遊星」

本人コメント

連作SPHEROLOGYの「六つの遊星」。ループが増えるごとに新しい動きの発見があります。球戯の増殖。科学の発見とは異なる、造形による発見に、あらためて気づかされました。

インタビュー

—今回の作品は連作なんですね。シリーズでの制作をされるようになったきっかけを教えてください。

教員養成に携わる中で、論じるだけでなく、具体的な制作モチーフを例示してみたいと思ったことが「球の動き」をテーマとしたシリーズ制作のきっかけです。

—受賞作は市展会期中、子供たちにも人気でしたよ。

ありがとうございます。造形教育のありかたを考えるなかで、形や色だけではなく、動き・プロセスといった要素をふまえる必要性について考えていたのが一助になっているかもしれないですね。

—最近はどのような活動をされていますか？

退任を期に、身近な暮らしに沿ったものづくりへと制作姿勢がシフトしていったのですが、そんな折、西宮市展にデザイン部門があることを知りました。しかもデザイン部門で立体作品も可とする公募展は少ないんです。これまで4回出品させていただいてるんですが、出展作はいずれも時間につれての変化、つまり「動きやプロセス」を基調にしています。

—今回出展の「球の動き」のテーマに通じていますね。そういった点は制作で常に意識されていますか？

そもそもは児童の造形行為の模擬に立ち返ってみようとする基本姿勢からでしょうか…「手あそび・ガラクタ・駄目もと」を容認し、ものづくりをする感じですかね。イメージだけに頼るのではなく、触れた手で考え、身近なモノを自由に活かし、とことん知恵をしぼる…ということでしょうか。

—制作技法はどのように習得されましたか？

学生時代にプロダクト・デザインを学びました。曲面成型に活かされるFRP技法(繊維強化プラスチック)などさまざまな技法を体験したことが、球のシリーズ作品では構想の実現を後押ししてくれましたが、格別の技術や材質によらなくとも、デザインの意図や構想の良質な表現は可能と考えています。

—なぜですか？

その方が、「デザインは身近で、普段の造形行為として存在する」ということを広く共感してもらえると思うんです。以前の市展出品作は特別の技法や材料は用いませんでしたよ。

—覚えていますよ。では最後に、今後の目標を教えてください。

地域の暮らしに的をしぼり、身近なデザインを自分の手づくりで提案していきたいです。

デザイン

西宮市展賞レビュー展 2019

船江千恵子

西宮市展賞受賞作

change

審査員コメント

圧倒的な迫力である。ともすれば面的になりがちな造形だが、下部の渇筆部で筆路を見せた上手い構成の優秀作だ。

本人コメント

以前は白を基調とした作風が多く、黒で攻める作品に〝変える〟という心情で制作。線により生命力を感じて頂きたいです。

作者紹介

1967年大阪府生/飛雲会同人/武庫川女子大学附属中学校高等学校、同志社小学校、県立尼崎高等学校非常勤講師/毎日展毎日賞受賞/奎星展奎星賞受賞/2018年2人展開催

インタビュー

—はじめに、作家活動をされるようになったきっかけを教えてください。

武庫川女子高等学校書道部に入部し、現師匠に出会い、前衛書にも導いていただき、本格的に書に向き合うようになりました。

—最近はどのような活動をされているんですか？

実は、長い間展覧会活動から遠ざかっていたんです。ですが、去年から毎日展などにも再挑戦しております。去年は南京町ギャラリー蝶屋にて高校からの友人と2人展を開催しました。

—船江さんの作品は力強く、自由でお洒落な感じがします。

ありがとうございます。制作の苦しみはありますが、書表現の幅広い楽しさを感じながら制作しています。

—どのような点にこだわりを持たれていますか？

そうですね…強く躍動感のある線、造形美、線の周りの余白美、そういったところを意識しています。

—現在の制作手法はどのように身につけられましたか？

…ただ、書くのみです（笑）

—なるほど（笑）最後に今後の目標を教えてください。

目標ですか… 各展覧会作品をその時の感覚で表現するのみではありますが、目に留めて頂けるような作品になるように精進致します。

+1 アクアリウム

本人コメント

魚・さかな・サカナ・fish…様々な魚の文字をモチーフに展開しました。色んな表情、動き、流れを楽しく感じてもらえるように表現しました。